

件請議ノ通タルヘシ

明治廿三年七月廿四日

司法省民部三一九一號

人民ヨリ縣知事ニ對スル訴訟

判決案ノ儀ニ付請議

別冊名古屋控訴院伺岐阜縣栗田武三郎

等ヨリ縣知事小崎利準ニ對スル不當處

分取消ノ訴訟判決案ハ行政上ニ基因セ

ルモノナルヲ以テ行政裁判案トシテ相

當ト思考候條成案ノ通り裁判為言渡可

然乎書類相添此段請閣議候也

明治廿二年十二月廿七日

司法大臣伯爵山田顯義



内閣總理大臣伯爵山縣有朋殿

明治廿二年号外第六號

岐阜縣多藝郡三郷和平民栗田武三郎
外廿七名日里岐阜縣知事小崎利準
係凡不當處分取消急訴事件明治廿二
年十月十一日附以本件行政裁
判二屬之九毛ノ二付明治十一年司法
省丁第廿四號達ノ通心得當院ニ於テ
審理スヘキ旨指令有之則テ審理ノ未
別紙裁判言渡案ノ如ク判決スヘキ
此ト見込候條別紙目錄ノ書類相添ヘ
此段及申稟主也

明治廿二年十二月十六日

名古屋控訴院長大塚正男

司法大臣伯耆山田顯義殿

明治三十二年号外第六号

裁判言渡書

原告人岐阜縣美濃國多藝郡三郷
村大字有尾村平民農

栗田武三郎

外二十七名

代人 全縣全國安八郡大垣町大

字廊町百拾番番戶士族代

言人

關口親章

被告人岐阜縣知事

小崎利準

代人全縣收稅局

杉本 信

右元有尾村人民貳拾八名ヨリ岐阜縣知事小崎
利率ニ係ル不當處分取消ノ詞訟ヲ審理シ双方
代人ノ陳述ヲ聽クニ
原告代人陳述ノ要旨ハ被告縣廳ハ原告人カ嚮
キニ徵收過税金返戻請求ノ詞訟ヲ提起シ被告
カ答辯書ヲ閱スルニ下池漁獵場區界紛雜ヨリ
常ニ爭論ヲ生シ却テ漁利ニ妨害ヲ来シ公益ヲ
害スルヲ以テ矯正セシメ爲メ原告共ノ所得税金
ニ付スルニ税金ノ名目ヲ付シテ官徴セリトア
ルヲ見テ姑マテ被告縣廳カ斯ル不當ノ處分ニ
及ハル地立ナル原告人等カ所得ヲ侵害セラレ
タルヲ知シリ抑モ有尾村公有地下池ナレモ

ノハ昔年ヨリ池運上ト称スル税金下池高外ニ
於テ毎年金四両壹步永百三拾七文五分宛ヲ上
納シ維新以來明治六年ニ至ル迄更ニ異ナル所
ナシ爰ヲ以テ民有ノ証跡判明ナレヨリ明治六
年始メテ甲第五号ノ地券証ヲ授與セラレ明治
八年地租改正ノ際ニ於テモ甲第七号証ノ通り
民有第一種ニ編入シテ其地券ヲ下付セラレタ
リ故ニ右所有地ニ於テ負擔スル土地ノ義務ハ
一般ノ賦課ヲ受クルノ外假令下池ナレハトテ
又常ニ爭論ヲ生スレハトテ爲メニ地主ノ所得
ヲ奪却シ其權利ヲ侵害セラルヘキ苦ナリ右下
池各所有者カ互ニ論爭詞訟ヲナスモノハ畢竟
人民各自カ其權利ヲ遂行スルモノニ外ナラカ

しハ之レカ為タ地主ノ擬全ヲ悉皆官納セシメ
タリトハ其當ヲ得サリ正處分ナリト不該下池
ナルモク魚鳥獵ノ取利ナルカ為タ甲第五号又
ハ八号証ノ如ク池ナカヲモ莫大ノ地價ヲ有シ
納稅セシモクナレハ該漁獵擬全ナルモ取
直サ又耕地ニ對スル小作米ニ異ナルナレハ
ハ其小作人共ニ於テ詞訟論争ヲナシタルハ
テ被官縣廳カ其小作擬米金ヲ悉皆官納セラル
ハ井道理ナレハ右明治七年下池ニ對シ為シ
タル不當處分ハ速ニ之ニ力取消ヲ求ム云フ
ニ在リ
被官代人答辨ノ要旨ハ漁獵運上ナルハ小
物成即チ租庸調三稅法中ノ調ナルモ二正
方

地租ト判然異別アリ藻草料藪代等種々ノ名称
アルモ總テ其收穫物品ニ課シタル料金ナリト
又本訴下池ハ從來公私有地ノ論ナク地租ハ悉
皆高内引ナニテ免除ニ屬シ別ニ漁獵運上ト
シテ元有尾元忌津ノ西村ヨリ永四貫三百八十
七文五分宛津屋新田ヨリ永三百十七文ヲ課出
セシメタルモハ該捕魚鳥ノ為メ定稅ヲ以テ
漁獵收穫其物ニ課シ明治五年大藏省第六十三
号ヲ以テ舊藩々租稅取立明治四年ハ一般ノ舊
慣ニ據置キ明治五年ヨリ改正ノ見込ヲ立テ經
伺施行スヘキ旨ノ達アリタルモ明治五六兩年
ハ漁獵運上即小物成ヲ雜稅ノ部漁獵稅ノ名称
ニ組換ヘタル迄ニテ舊慣ニ據置ケリ然ルニ獵

場ノ區界判然セサルヨリ獵ニ他人ノ持場ニ立
入常ニ爭論ヲ生シ漁利ニ妨害ヲ來タシ公益ヲ
害スル少カラサルヲ以テ乙第一号証ノ通り閣
係村々ノ請書ヲ徴シ乙第二号証ノ通り主務省
ニ稟議シ請負稼ニ改メタルハ即チ之レカ税法
ヲ改正セタルニ過キサルハ正將タ公有地ナル
モノハ官民有ノ區別判別セサル一種ノ名称ニ
シテ純然タル民有ニアル故ニ曾テ公有地ナ
ル本訴下地ニ對シテハ明治六年申第五号ノ
地裁ヲ下附シ明治七年第四百十三号公達ノ
リタルヨリ官民有區分調査ヲ遂ケタルニ所有
ノ確証十分ナラサルヨリ一旦官有地編入ノ違
シニ及ヒタル處乙第三号証ノ難願アリ

、未乙第四号証ノ如ク地租改正事務局總裁ニ
終同シ甲第七号証ノ如ク民有地芽一種ニ編入
セリ其以前該地カ公有地タル時ニ於テ明治六
年中被吉縣廳カ明治五年大藏省第六十三号ノ
達ニ基キ必用ト認メ税法ヲ改正シ公私有地即
下地一般請負稼トシテ而シテ其請負金二千百
拾五圓ノ内私有地即國稅度太郎カ所有九十六
町三反壹畝十壹步ニ屬スル分一千百九圓ノ内
税金四百五拾七圓ノ外之ヲ度太郎ニ下付シ公
有地即本訴ノ池八拾七町三反九畝九步ニ對ス
ル是千六圓ノ内中堤修繕料並ニ諸公費村入費
金百五拾壹圓ヲ原告ヘ下渡シタル外八百五拾
五圓ヲ税金トシテ徵收シタルハ決シテ其處分

場ノ區界判然セサルヨリ猥ニ他人ノ持場ニ立
入常ニ爭論ヲ生シ漁利ニ妨害ヲ来タシ公益ヲ
害スル少カラサルヲ以テ乙第一号証ノ通り関
係村々ノ請書ヲ徴シ乙第二号証ノ通り主務省
ニ稟議シ請負稼ニ改メタルハ即チ之レカ税法
ヲ改正シタルニ過キサルヘシ將タ公有地ナル
モノハ官民有ノ區別判別セサル一種ノ名称ニ
シテ純然タル民有ニアラス故ニ曾テ公有地ナ
ル本訴下池ニ對シテハ明治六年中甲第五号ノ
地券ヲ下附シ明治七年第百四十三号公達ノア
リタルヨリ官民有區分調査ヲ遂ケタルニ所有
ノ確証十分ナラサルヨリ一旦官有地編入ノ達
シニ及ヒタル處乙第三号証ノ難願アリ再調査
難ハ歎ノ誤焉ナリ

、未乙第四号証ノ如ク地租改正事務局總裁ニ
経同シ甲第七号証ノ如ク民有地第一種ニ編入
セリ其以前談池カ公有地タル時ニ於テ明治六
年中被吉縣廳々明治五年大藏省第六十三号ノ
達ニ基キ必用ト認メ税法ヲ改正シ公私有地即
下池一般請負稼トナシ而シテ其請負金二千百
拾五圓ノ内私有地即國枝彦太郎カ所有九十六
町三反壹畝十壹步ニ屬スル分一千百九圓ノ内
税金四百五拾七圓ノ外之ヲ彦太郎ニ下付シ公
有地即本訴ノ池八拾七町三反九畝九步ニ對ス
ル壹千六圓ノ内中堤修繕料並ニ諸公費村入費
金百五拾壹圓ヲ原告ヘ下渡シタル外八百五拾
五圓ヲ税金トシテ徴收シタルハ決シテ其處分

、不當ニ出シモノニアラサルヲ以テ原告カ訟
求ハ排斥セラレ度ト云フニ在リ
仍テ証拠ヲ審閱シ説明スル尤ノ如シ
美濃國多藝郡字下池及別百八拾三町七及廿步
、内九拾六町三及壹畝拾壹步ハ曾テ私有地ト
称シ國枝彦太郎ナルモノ之ヲ所有シ残り八拾
七町三及九畝九步ナルモノハ曾テ公有地ト称
シ本訴ニ處分ノ當否ヲ爭ヘルモノナリ其私有
地ナルモノ明治十年以來志津村ヨリ被告縣廳
或ハ原告村ヘ係リ詞訟ヲ爲シ明治十六年其結
果ヨリ之ヲ見レハ志津村所屬ニ歸シタルモノ諛
詞訟以前ニ在テハ被告縣廳カ公有地ノ分ト同
シク原告村ノ所屬トシ右池全躰ニ對シ乙第一

号ノ請書ヲ徴シ乙第二号証ノ通り主務省ニ稟
議シ請負稼ニ改メタリ諛時被告縣廳カ爲セシ
處分ハ果シテ不當ナリヤ否ヲ審明スルニ在ル
モノトス字下池公私有地共一般取締ナク且ツ
獵場區界判然セス稼人共猥リニ他人ノ持場ニ
立入り常ニ爭論ヲ生シ相互ニ利益ヲ失フニ至
ルヲ見被告縣廳ハ明治五年大藏省第六十三号
ノ達アリテ右下池ニ對スル税法ヲモ改正セサ
ルヘカラサルヲ以テ先ツ其魚鳥捕獵ノ取締ヲ
ナシ之ヲ請負稼ニ附セントシ乙第一号ノ請書
ヲ徴シ乙第二号証ノ經伺ニ及ヒタルモノナリ
抑モ公有地ナレモノ明治五年地券發行ノ際ニ
在テ原野秣場ノ類ニシテ純然タル私有ニアラ

サハ土地ヲ名称スルモノニシテ甲第五号ノ地
券ヲ受ケシ池ナルモノハ古来有尾村ノ高地ナ
ルモ其高ニ對スル納租ハ悉皆之ヲ免除セリ其
之ヲ免除スルノ原因ハ或ハ元耕地ニシテ天災
ニヨリ其地質ヲ變換シタルカ為メカ又ハ他ノ
耕地ノ養水ニ供セシメ之ヲ高内引ケニナシ
タルカハ分明ナラスト虽其高即土地ニ對ス
ル税額ノ免除セラレ原告人等カ年々上納セル
藻草役漢業税ハ右高外ニ係ル小物成ナル米永
ナルハ原告カ證據ニ差出セル甲第一号乃至
第三号甲第九号乃至第十一号甲第十五号証ニ
徴シテ明ナリ且ツ捕魚鳥税藻草役ニシテ其定
免ナルモノハ所謂租庸調ノ其調即小物成ニシ

テ租即正租所謂村高ナルモノトハ其性質異ナ
ルモノニテ田地畑地ノ租税ト同一ノ者ヲ為ス
ヘカラサルナリ然ラハ則チ原告人民ハ從來下
池公有分ニ對シ捕魚鳥及ヒ採草ニ付テノ許可
ヲ受ケ年々運上永米ヲ納メタルモ池其物ニ對
スル所有ノ權ナキヲ以テ被告縣廳ハ一旦該池
ハ官有ノ達ニ及ヒタリシモ乙第三号証ノ難願
アリ原告人民カ從來該池所有ノ權ナキハ勿論
ナリト虽其累年捕魚鳥採草ノ事實アルヲ因由
トシ被告縣廳カ乙第四号証ノ如ク之ヲ原告人
民ノ所有ニ為サシメントノ意見ヲ以テ經伺、
末甲第七号証ノ達ニ及ヒタルモノナレハ原告
人民カ該地ニ對セル所有權ハ甲第七号証ニ據

リ初メテ之ヲ得タルナリ左スレハ明治七年中
ニ在テ諛池ハ未タ原告ノ所有ニ歸セス又諛年
度被告縣廳カ諛捕魚鳥稅ヲ徵收セシニモアラ
サレハ被告カ獵場ノ區界判然セス相互ノ持場
ニ爭論ヲ生シ公益ニ妨害アリト見認メ且ツ明
治五年大藏省第六十三号ノ達アリテ稅法改正
ノ場合ニ際シ其筋ニ稟議シ從來關係アリシ原
告人共ヨリ乙第壹号ノ請書ヲ徵シ入札拂ニ附
シ其得タル金額中所有者ノ得ヘキ益金及ヒ堤
修繕費並ニ公費ヲ除クノ外之ヲ官納シタルハ
被告縣廳カ當然其處分權ヲ行ヒタルニ外ナラ
サレハ是ヲ以テ其處分ヲ不當ナリトハ做シ難
シ且ツ原告カ甲第九号証ニ銀拾壹匁同断甲第

十二号証ニ金拾八錢三厘同断トアルニ附會シ
又甲第五号地券ニ地代金ノ記載アルヲ目シテ
論スル旨アルモ明治六年地租改正條例ノ彙行
ニ付テハ右施行規則並ニ地券渡方規則ニ規定
セラレタル旨趣モアルハ其村方ヘ附與セル公
有地ノ地券ニ地價ノ記入ヲナスハ勿論ナルノ
ミナラス甲第九号証ノ拾壹匁甲第十二号証ノ
拾八錢三厘カ本訴ノ池運上ニ關係アリトセハ
必ス甲第一二三甲第十十一十五号証ニモ此記
載ナカラサルヘカラサルニ之レカ記載ナキハ
全ク他ノ池運上小物成ナルハ論ヲ俟タサルナ
リ其他双方ノ論并ハ必用ナラサルヲ以テ説明
ニ及ハス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ
原告ノ請求相立タス訴訟入費ハ原告ノ負擔タ
ルヘシ

右ハ内閣ノ裁可ヲ經テ明治二十年 月
日名古屋控訴院公庭ニ於テ裁判ヲ言渡スモ
ノ也

名古屋控訴院

民事局長心得

控訴院評定官

控訴院評定官

控訴院評定官代理

始審裁判所判事

裁判所書記

右正本ニ依リ謄寫スルモノ也

明治二十二年十二月十四日

名古屋控訴院

裁判所書記 鈴木重民

岐阜縣栗田武三郎等ヨリ縣知事
小崎利準ニ對スル不為處分取
消ノ訴訟判決按ノ件ハ請議ノ
通

明治廿二年一月廿五日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋

廿二
三
五
七
四

明治二十三年一月二十四日

法制局長官

別紙司法省請議岐阜縣栗田武三郎等ヨリ縣知事小崎利準對スル平當處分取消ノ訴訟判決按ノ件ヲ審査スルニ名古屋控訴院ノ判決案ハ事理相當ト信認ス

稽令按

岐阜縣栗田武三郎等ヨリ縣知事小崎利準ニ
對スル不當處分取消ノ訴訟判決按ノ件請議

ノ通タルヘシ

明治三十三年一月廿五日

明治三十三年一月廿五日

司法省民第二七七三號

人民ヨリ村長ニ對スル訴訟

判決案ノ義ニ付キ請議
別冊松江始審裁判所濱田支廳伺島根縣
三浦清之助等ヨリ村長中村行正ニ對ス
ル取込米請求ノ訴訟判決案ハ行政上
ニ基因セルモノナルヲ以テ行政裁判案
トシテ相當ナルニヨリ成案ノ通り該支廳
ニ於テ裁判為言渡可然ト思考候得共別
ニ依ルキノ法律無之ニ付キ書類相添
此段請閣議候也

明治三十三年一月十一日司法大臣伯爵山田顯義
内閣總理大臣伯爵山縣有朋殿

甲四九

